郷土史 ていね

第 179 号
令 和 5 年 2 月 8 日
手稲郷土史研究会 会報

［令和 5 年1 月11 日 定例会発表要旨］

北海道薬科大学から北海道科学大学へ

北海道科学大学 名誉教授（前 学長） 渡 辺 泰 裕 氏

1982（昭和 57）年 4 月に 北海道薬科大学に赴任しました。当時の北海道薬科大学は 開設から 8 年を経過し、ようやく単科大学として 自立し始めていました。赴任当初は、私立大学の教員として どのように教育・研究の成果を上げていくかを考えていたと思います。あれから 40 年の歳月を経て、昨年 3 月に 無事 退職いたしました。本日は、日本の大学（とくに私立大学）の現状、北海道薬科大学の歴史、北海道科学大学などについてお話したいと思います。

■ 大学（とくに私立大学）の現状

大学入学者数は、基本的に 18 歳人口と大学進学率、受け皿となる大学の入学定員によって 決まります。我が国では 少子化により、18 歳人口は減少の一途をたどっていますが、一方、新設大学の設置、学部・学科の新設、定員増が続いており、その結果、現在 約 40%以上の大学が 定員割れとなっています。そして、そのほとんどが 私立大学です。私立大学は 経営の 70～80%を学費に依存しているため、十分な入学者数を確保できなければ、経営が不安定化することになります。

北海道は 全国平均を上回る速さで 少子化が進んでおり、18 歳人口は 2022（令和4）年は 4.4 万人でしたが、10 年後には 3.8 万人にまで減少すると予測されています。選ばれる大学であり続けるため、またより質の高い入学者を迎え入れるため、各大学では多様な取り組みを進めています。

■ 北海道薬科大学

北海道薬科大学は 1974（昭和 49）年、小樽市桂岡町の風光明媚な高台に開学しました。開学後は、国策による「医薬分業」推進の波に乗り、安定して志願者が増加していきました。日本では、漢方医が診断し、自ら与薬（投薬）する伝統があったことから、医薬分業は なかなか進みませんでしたが、「薬害」「薬漬け医療」「薬の過剰投与」といった大きな社会問題が起こり、国は 医薬分業を進める方策を採ったのです。当時の薬学部は、薬剤師の養成と 薬学研究者養成のための教育の、いわゆる「二足のわらじ」教育が行われていましたが、医薬品の高度化・複雑化、加えて高齢化が進む中で、薬学教育に大きな転換が必要になりました。

北海道薬科大学 全景 〈小樽市桂岡町〉

1993（平成 5）年、北海道薬科大学は 全国で初めて教育目標を「薬剤師養成」に一本化しました。その後、学校教育法が改訂され、2006（平成 18）年から 薬剤師を養成する教育課程の修業年限は 6 年になりました。他方、4 年制の教育課程も残され、こちらは 薬学研究者・薬学技術者の養成を担い、薬剤師国家試験の受験資格はありません。

薬剤師養成が6年制に移行したのと時を同じくして、薬学部を取り巻く環境が激変しました。

北海道科学大学 校舎〈手稲区前田〉

18 歳人口が減少しているにもかかわらず、多くの私立薬系大学が新設されたのです。これにより 既存の薬学部、とくに地方、単科、小規模校である 北海道薬科大学は 大きな影響を受けました。定員は確保できましたが、志願者数は 減少の一途をたどりました。このような状況を打開するため、北海道工業大学（現北海道科学大学）のある 手稲区の前田キャンパスへ移転し、さらに両大を統合することとなりました。

■ 北海道科学大学との統合

北海道薬科大学の学長に就任後、前田キャンパスへの移転計画が 本格的に動き出しました。桂岡の校舎は 築 40 年を経過し、改築が必要なタイミングでしたが、傾斜地にあるため、教育を進めながらの改築は困難であったことも 移転の要因でした。新校舎の設計、学生・卒業生・父母・教員・桂岡住民（とくに学生が居住するアパート経営者）・小樽市への説明、社会への広報 などを、学校法人 および 北海道科学大学と連携しながら進めました。

一方、旧 北海道工業大学も 18 歳人口の減少による影響を受け、学生募集は厳しい状況でした。この困難な状況を乗り越えるため、豊平区中の島にあった 学校法人、系列校である 北海道自動車短期大学と 北海道薬科大学とを 前田キャンパスに集約すること、高齢化社会の到来を見据えての保健医療学部を設置することで、総合大学化を目指しました。

こうして 2015（平成 27）年 4 月に 北海道薬科大学は前田キャンパスに移転し、さらに3年を経て 2018（平成 30）年 4 月、大学の統合を行いました。かたちは大学統合ですが、手続きとしては 北海道薬科大学を廃止し、北海道科学大学に薬学部を設置するというものでした。保健医療学部の設置と大学統合により、北海道科学大学は 約 4,700 名の学生を要する、北海道で最も規模の大きい私立大学となりました。また、安定して志願者を確保することができ、志願者数も北海道内の私立大学で最多となっています。

2023（令和 4）年 4 月には 北海道科学大学高校も 前田キャンパスに移転して 約 1,000 名の生徒が加わります。高齢化が進んでいる手稲区ですが、前田キャンパスに集う 6,000 名に近い 若い学生・生徒が その活力源となることを期待しています。

北海道科学大学 キャンパスイルミネーション
〈手稲区前田〉

遺構・遺物は語る

牛舎の 2 階へと続く斜路

砂山地区に 牛舎の 2 階へと続く 斜路が遺っている。腰折れ屋根の建物こそ 去年取り壊されてしまったが、斜路は健在だ。これは、馬車などで直接、上層階へ飼料となる乾草を搬入するためのもので、北大の明治期築の家畜房（モデルバーン）でも 同様の 土盛りのスロープが設けられていたという。札幌市内で現存するのは おそらく ここだけだ。トラクターが普及し始める昭和 40 年代以前、馬が活躍した確かな証といえる。

砂山地区（手稲前田）に遺る馬車スロープ

こちらの農家は 戦後に この土地を買い取ったとのことで、馬車よりはトラックを多く使ったそうだが、当初は馬の使用もあったという。また、煉瓦造りのサイロも戦前に先の地主さんが建てたもので、手稲区内でも数少ない 昭和の戦前期から存在する建物ではないだろうか。

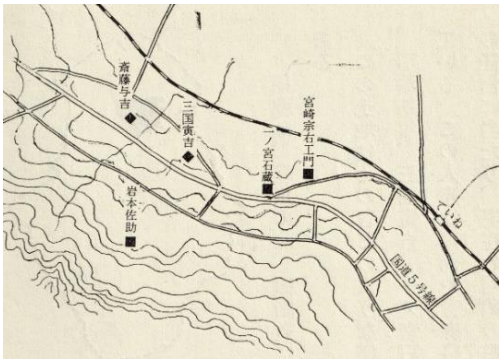
菊池博行（手稲郷土史研究会 会員）

地域のあらまし

「稲穂」の歴史秘話

▶手稲への移住者の先駆け…

「稲穂」の地名は 昭和 17（1942）年、手稲村の字名改正の際に生まれたもので、「水田耕作ノ豊饒ナルヲ希望シ名付ントスルモノナリ」と 道庁拓殖部に申し出ています。それ以前は「手稲村 大字下手稲村 字下手稲星置」の一部でした。昭和 42（1967）年、札幌市との合併に伴って「手稲稲穂」と改称。昭和 58（1983）年には 行政地名の整備で JR 函館線の北側が「曙」として分離され、南側の宅地化が進んでいたところは 再び「稲穂」となりました。

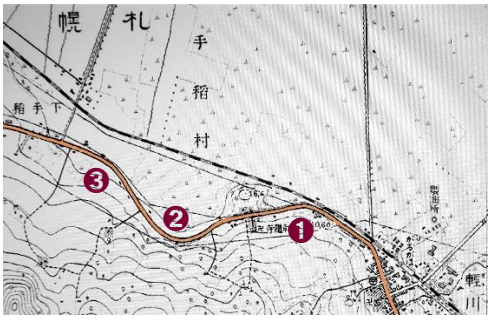


明治 5 年頃の入植者
〈札幌市『手稲町誌』(上) より＝道路はほぼ現況〉

和人の入地は 安政 4（1857）年に遡り、中嶋彦左衛門および中川金之助の名が記録に残っています。これが、手稲の“移住開拓者の濫觴（らんしょう）”とされますが、定住には至らなかったようです。※「手稲村史原稿」などでは「星置」への入植とあるが 現在の稲穂にあたる 明治 5（1892）年頃までに青森県から 5 戸が入植、その後、明治 10 年代後半から 移住者が相次いだといいます。一帯は、昭和 40 年代まで水田が広がり、ダイコンの産地としても知られていました。

▶弯曲する道が意味するもの…

現在の稲穂地区は JR 函館線の南側、国道 5 号を境に平地と丘陵地とに分かれていますが、大正期の地図では線路側（右図の①③）と山側（同②）にそれぞれ道が弯曲して描かれています。①は市道「手稲本通線」、③は同「稲穂線」として現存し、②はすでにありません。



大正 5(1916) 年の測図による 札樽道
〈大日本帝國陸地測量部「銭函」より抜粋・加筆〉

かつて「軽川街道（がるがわかいどう）」と呼ばれた この道こそ、国道 5 号の前身「札樽道」であり、原形となったのは 古くは「銭函道（ぜにばこどう）」、「サッポロ越新道（ごえしんどう）」でした。明治 2（1889）年 10 月から 11 月にかけて開拓使官吏が本府建設のため、銭函を前進基地として札幌に出向いていますが、おそらく弯曲する旧道も その頃に整えられたのでしょう。もととなる開削路は、幕末の探検家 松浦武四郎が歩いたときには 既にあったのかもしれません。

なぜ 直線ではなく弯曲させたのか、昭和 26（1951）年刊の『手稲町誌』に記された 三國寅吉 氏の回顧録から考察します。「[前略] 明治五年の夏頃と思いますが、私の七歳の頃 両親に手を引かれて現住所に到着しました。[中略] 小樽から銭函を過ぎて この土地に来ました。ここは良い所だなあと見定めて土着したのでありましたが、開拓当時は原始林で 林の中へ入ると お日様の光を見ることが容易にできませんでした。[中略] 私の方の水田地帯は沼のように泥深く、もし誤って馬等が落ちたら なかなか上げることができませんでした。それが今は立派な水田になりました。何だか夢のように想います。[後略]」 ── 草創期の苦労がうかがわれます。図中の②の箇所は 泥炭地が入り込んでいました。旧道は地形を見極めて 迂回させたと思われます。

用水路の掘削を請願する古文書
〈手稲郷土史研究会 会報『郷土史ていね』第 139 号より〉

▶史跡「手掘りの小川」…

稲穂 2 条 1 丁目の市道「手稲本通線」沿いに『手掘りの小川』と刻まれた史跡標があります。明治初頭に入植した宮崎家に遺る古文書から、この小川は住民の手掘りで完成した用水路であったことが明らかとなり、

先人の労苦を語り継ごうと、平成 14（2002）年、稲穂金山活性化推進委員会によって標柱が建てられました。

「乍恐奉願候書付」※「恐れながら願いたてまつりそうろう書きつけ」と読む で始まる文書は、明治 13（1880）年 4 月、手稲村戸長 菅野格 および 札幌区長 山崎清躬を通して、開拓使あてに提出した用水路掘削のための請願で、同年 6 月に許可されました。建設機械など一切ない時代、軽川から分水して 稲積川に注ぐまでの 約 1.5km を住民総出で掘ったと伝わります。生活用水として使われ 水田耕作にも不可欠だったことから、清掃作業も住民自らが行い 昭和 30 年代まで続けられました。現在は「本町排水」の名で そのほとんどは暗渠となりましたが、史跡標の周辺に当時の面影を留めています。

夫婦松
〈手稲区ホームページより〉

▶市の保存樹木「夫婦松」…

札幌市では、樹木に関する法律や条例に基づいて、由緒由来や学術的価値のある貴重なものを「保存樹木」として指定し、良好な保全に努めています。

市道「稲穂線」沿線の 稲穂 2 条 6 丁目に聳える アカマツとクロマツもそのひとつで、昭和 60（1985）年に指定されました。推定樹齢は 140 年余、明治 17（1884）年に広島県から この地へ移住した 池田秋三郎氏が入植の記念として植えたものです。おそらくは“望郷樹”でもあったのでしょう。二本が仲睦まじく往来を見守る姿から“夫婦松”と呼ばれ、地域に親しまれています。

▶カタクリの群生地…

平成 12（2000）年開設の『稲穂ひだまり公園』（稲穂 4 条 1 丁目）では 早春、カタクリ が林床を彩ります。薄紫やピンク色の可憐な花は“スプリング・エフェメラル”（＝春の妖精）として人気ですが、乱獲や土地開発によって自生種は各地で激減し、いまでは希少な植物になってしまいました。

カタクリの生育環境を守ろうと、この公園では 専門家による自然観察会や保全作業が毎年おこなわれ、成果は確実に現れてきました。手稲山麓のかつての植生を物語る 多様な植物が、丘陵の雑木林に残されています。 ［編責：広報部］

「稲穂ひだまり公園」の
カタクリ

✻参考文献：「手稲村史原稿」（仙堂 控え）、手稲町『手稲町誌』、札幌市『手稲町誌』（上）・（下）、札幌市教育委員会『さっぽろ文庫 1～札幌地名考』、同『新札幌市史機関誌 札幌の歴史』第 25 号、手稲連合町内会連絡協議会・手稲鉄北連合町内会連絡協議会『手稲開基 110 年誌 手稲の今昔』、札幌市手稲区『手稲区歴史ガイドマップ』、稲穂金山活性化推進委員会『稲穂 金山 よもやま話』第三集、関秀志『札幌の地名がわかる本』、手稲区土木部「稲穂ひだまり公園」、手稲郷土史研究会「会報 郷土史ていね」第 139 号、一ノ宮博昭「ていね倶楽部」、杉浦正人「札幌時空逍遥」、ほか。

◆◆◆◆◆◆◆

★パネル展の開催を延期します 2 月中旬から予定されていた パネル展「まち・ひと・くらし～もっと知りたい！手稲の歴史」（手稲郷土史研究会 主催・手稲区 後援）は、諸般の事情により 今年度中の開催を取りやめ、次年度以降に延期することとなりました。どうかご理解ください。

★定例会の発表者を募集中！ 皆さんの研究成果を 手稲郷土史研究会の定例会で 披露しませんか。ただいま、令和 5 年度の発表者を募集しています。ご協力いただける方は、2 月末日までに当会研究部長あて お申し出ください。

次回定例会 ⇒ 発表内容「『北海道造林合資会社物語』異聞 ― 近藤新太郎家の家系図」沖田紘昭（手稲郷土史研究会 会員）
3 月 8 日（水）18：15～ ／ 手稲区民センター 2 階 第 1・第 2 会議室 ※会員でない方のご参加は申し込みが必要です。

手稲郷土史研究会 会報「郷土史ていね」第179 号 令和５年２月８日発行 発行責任者：永井道允（手稲郷土史研究会 会長） 編集：菅原純子
✤〒060-0808 札幌市北区北８条西３丁目 札幌エルプラザ 2階 札幌市市民活動サポートセンター レターケースNo. 277 手稲郷土史研究会
✤メールアドレス kyoudoshi_teine2005@yahoo.co.jp ✤TEL 090-3381-4994〈担当：林〉